

2019年度 中国ブロック女性審判講習会 報告書

報告者：大山 早紀子

○日程：令和元年 8月9日（金）～8月11日（日）

令和元年 8月10日（土）のみ参加

○会場：8月10日（土）防府高等学校

○審判会議（座学研修）：松本隆志 氏（JBA T級インストラクター：山口県）

今回の研修での目的は、女性審判員の交流を図ると共にライセンスの昇格を目標とすることを踏まえ、3PO メカニクスの理解と実践を通して、課題克服に向けた修正力を身につけることであった。ポイントは次の3点。

- ・情報は全国共通であること
- ・どのような準備をしてゲームに臨むのか
- ・ゲームの中でCCMを発揮できるか

PGCで確認していく内容。

- ・IOT
- ・ファウル、バイオレーションの判定基準
- ・3PO メカニクス
- ・ルールの変更点
- ・クルーワーク
- ・対戦チームやプレイヤーの特徴などの情報共有

ここからは映像を見ながらの研修となる。

C：ドライブに対してクロスステップが必要なのか。それともレベルを下げるべきなのか判断して位置取りをすること。※必ずクロスステップしないといけないわけではない。

アングルを持っている：これはPOCをはっきり確認できるかということが重要なカギ
これから先は「POC」と「AOS」が重視されてくる!!

TとCが積極的になる分Lが消極的になっていくケースが多くなってきている。

→Lも積極的に判定していく

プロテクトシューター：「FUL」

F→フロア

U→アップ

L→ランド

フェイクにいったらプレイヤーとコーチにウォーニングに行くこと。

○実技（担当ゲーム）

第 46 回 水戸杯争奪バスケットボール大会（高校の部）

1 日目 3 試合目 宇部商 対 北九州市立

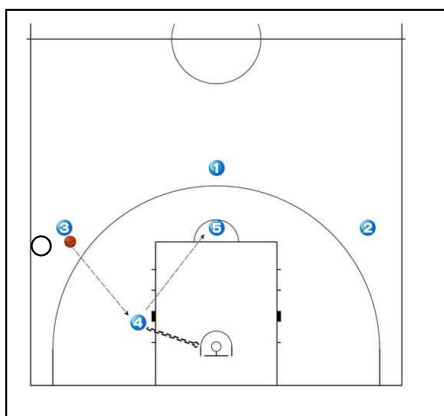
CC：佐田朋美（大分） U1：大山早紀子（鹿児島） U2：重政由佳里（山口）

《PGC》

- ・メカニクス
- ・UF の C1~5 の確認
- ・ルールの変更点
- ・各自課題としていること
- ・クルーワーク

《IR による講評》

- ・POC がはっきりしているか。
- ・RSBQ の R と B の部分の確認。DF の接触によりリズムとバランスに影響があったのかどうか。
- ・影響がないにも関わらず笛にしてしまうことで FOM が崩れていってしまう。
- ・UF のクライテリアの具体的な内容の確認。ルーズボールに対する F の整理を。
- ・L の時の体の向きがオープンになりがち。45 度アングルを。
- ・ステーションナリー&ディスタンスの「ディスタンス」の部分がない。



- ・③がボールマン、④ポストアップしている状況でセンターが ○ の位置は危険！レベルを下げた方がベスト。

○全体を通して

ステーションナリー&ディスタンスをすることで RSBQ の確認が出来、レフェリーディフェンスが出来る。レフェリーディフェンスをすることで POC の確認ができる。今回の研修を受けて全てが判定に繋がることを再確認した。POC やレフェリーディフェンスに関しては県内の研修でも講評頂くことが多いため自分の弱い部分だと再認識した。映像での確認や様々な機会でのディスカッションを通して弱点を克服していきたい。

ルールの変更点や内容、L でのアングルの取り方等は常に意識して改善していく必要があると感じた。

最後に、開催県の山口県バスケットボール協会の皆様、原田審判長をはじめ鹿児島県教会の皆様、今回このような貴重な機会を頂きありがとうございました。